

2026-2027シーズン インフルエンザ流行予報

作成日：2026年8月5日／対象地域：日本（東京都を中心に）／根拠：南半球（豪州2026）サーベイランス・WHOワクチン株情報・国内先行指標

予報の骨子。流行の始動は8月下旬～9月（東京では既にA型陽性を確認）。定点当たり1.0超の本格流行入りは9～10月と見込み、きわめて早期に流行がはじまった昨季（2025-26）よりは数週間遅い一方、コロナ前の平年（11～12月）比では早い。年内はA型（A(H3N2) subclade K 主導、A(H1N1)pdm09 混在の可能性）、年明けからB型（B/Victoria）という二峰性を予想。規模は昨季を下回る可能性があり、ワクチン抗原適合の改善が下押し要因。最大の変数は「A型の主役型（H3N2 K か H1 か）」と「subclade K系統内の継続的ドリフト」。

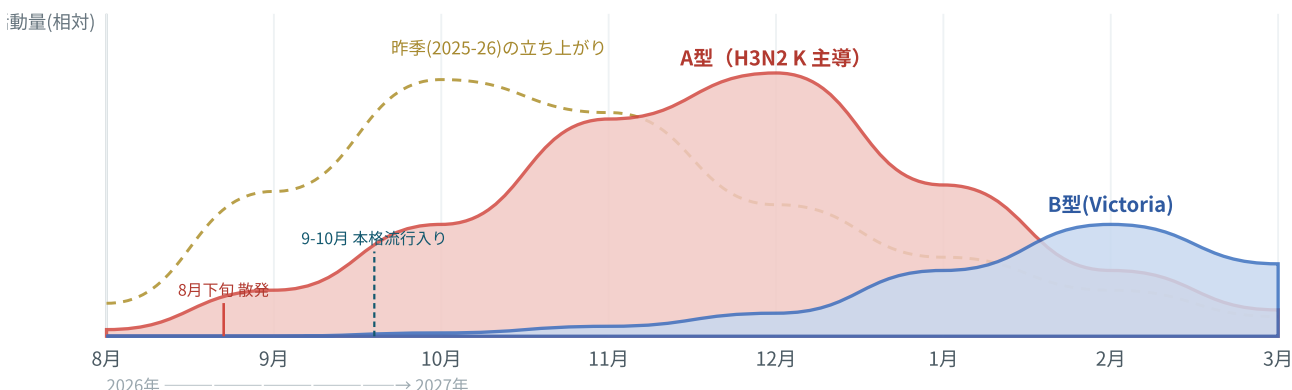
1. 南半球総括（豪州2026＝日本2026-27の先行指標）

豪州の2026年届出は5月中旬時点で約31,874件と、記録的だった2025年の同時期を下回って推移。2025年はA(H3N2) subclade K の出現により、豪州は2001年以来最多の457,906件、ピークが10～11月へ後ろ倒しし季節が大幅に延長した異例のシーズンだった。2026年は立ち上がりが相対的に穏やかで、冬季（6～9月）にかけてH3N2が急上昇する可能性が警告されている。感染当たりの重症度は例年並みだが、**小児の罹患比率がやや上昇**（K株感染の年齢中央値20歳）し、小児で消化器症状を伴う例が報告されている。

2. ウイルス学：A(H3N2) subclade K

subclade K（J.2.4／J.2.4.1系統）はHA遺伝子に7アミノ酸置換、NAにD346G変異を蓄積した抗原ドリフト株。2025年推奨ワクチン株血清に対し**204/205株（99.5%）が8倍以上のHI反応低下**を示し、卵由来ワクチン接種者の抗体価はK株に対し成人76%・高齢者59%低下と報告された。2025年7～8月に出現後、米→豪→NZ→欧亜と系統地理学的に拡散し、少なくとも34か国で検出。北半球2025-26では例年より数週間早い流行開始が記録された。

3. 時期・規模の予報



図：2026-27シーズンの流行時期イメージ（模式図。縦軸は相対的な活動量で実測値ではありません）。A型が年内に主流行、B/Victoriaが年明けに第2波。破線は昨季の早期立ち上がりとの比較。

時期

予想される動き

主な型

8月下旬～9月	散発～局地的な学級/施設内発生。先行指標として沖縄・都市部を注視	A（H3N2/H1）
9～10月	定点1.0超の本格流行入り（昨季比 数週遅め／平年比 早め）	A主体
11～12月	A型のピーク。規模は昨季を下回る可能性	A（H3N2 K 主導想定）
1～3月	年明けにB型の第2波。二峰性を形成	B/Victoria

4. ワクチン抗原適合（今季の好材料）

昨季のきわめて早期の流行にはK株と当時ワクチン株の抗原ミスマッチが寄与した。今季はWHOがKを踏まえて更新し、北半球2026-27は3価で A/Darwin/1454/2025（H3N2）類似・A/Missouri/11/2025（H1N1）類似・B/Tokyo/EIS13-175/2025（B/Victoria）類似を推奨。適合改善はピークの高さと立ち上がりの鋭さを緩める方向に働くと期待される。ただしK系統内でのドリフトは継続しており、適合は「昨季よりは良い」程度と評価するのが安全。

5. 国内先行指標と監視ポイント

- **型別サーベイランスの早期確定**：A型の主役がH3N2(K)主導かH1N1混在かを早期に見極め、規模予測とワクチン適合評価の主要変数とする。
- **先行地域**：沖縄の動向を1～2週の先行指標として活用。東京都IDSC定点・JIHS（感染研）週報を継続監視。
- **昨季の残存免疫**：2025-26の大規模H3流行による集団免疫が、今季H3の立ち上がりを遅らせ・小さくする可能性。

6. 臨床・学校保健への示唆

- **ワクチン接種時期**：本格流行入りが9～10月と早めのため、**接種完了は9月中～10月上旬を目標**。小児は2回接種のスケジュールを前倒しで設計。
- **抗ウイルス薬**：バロキサビル耐性変異の出現は接種歴等と関連しうるため、選択と経過観察に留意。重症化リスク群への早期投与を基本とする。
- **検査運用**：流行初期は迅速抗原の感度限界に留意し、必要に応じPCR（多検体対応）併用。型別把握を早期に。
- **学校保健**：出席停止期間はウイルス排出動態・ワクチン/抗ウイルス薬使用・症状の重症度を踏まえた運用の検討余地。施設内二次感染対策（症状別ゾーニング）を早期に。

不確実性。 本予報は南半球データと公開情報に基づく確率的な見通しであり、実際の開始時期・規模・優勢型は変動しうる。特に (1) A型の主役型、(2) K系統内ドリフトの進行、(3) 接種率と残存免疫、が結果を大きく左右する。直近数週の国内実データで随時更新すること。

主な出典：A(H3N2) subclade K 南半球2025解析（PMC12701333）／豪州2026シーズン見通し（専門家解説）／WHOワクチン株更新（Health Policy Watch）／東京都感染症情報センター インフルエンザ流行状況。

本文書は流行予報であり、個々の診療・公衆衛生判断に代わるものではありません。最新の公式サーベイランス（JIHS／厚生労働省／各自治体感染症情報センター）を併せてご確認ください。編集可能なWord版・図表の差し替えにも対応します。